

【視察調査報告書】

委員会名	交通対策特別委員会
派遣委員名	【委員】 9名 若尾喜美絵委員長、川村奈緒美副委員長、森 喜彦委員、富永純子委員、石井宏和委員、八木下輝一委員、西本和也委員、相澤耕太委員、福安 徹委員
日 程	令和2年（2020年）11月9日（月）
視 察 先	東京都町田市鶴川団地（UR 都市機構）
目的及び概要	社会福祉法人悠々会 高齢者送迎事業「町田市鶴川団地活性化プロジェクト」について 【概要】 鶴川団地は、1960年代に建設された坂のある大規模団地で、買い物やお出掛けで困っている高齢者が増加していることから、令和元年11月から4人乗り電動カートで送迎するサービスを開始した。使用する電動カートは、国土交通省が進めている「グリーンスローモビリティ」に該当し、自家用有償運送としては、全国で初めて電動カートが公道を走行している。
委員長所感 （意見・課題・本市への反映など）	●若尾喜美絵委員長 鶴川団地の移動支援策は、住民の日常生活や買い物動線を踏まえ、商店街の活性化やコミュニティづくりにまで目配りがされ、まちづくり、交通施策、高齢者福祉を融合させた視点で、移動支援策が検討されている。また、全国初のグリーンスローモビリティ（以下、「グリスロ」という。）の導入で、住民、社会福祉法人、株式会社、都市再生機構、町田市や国の支援と、きめ細やかな連携が図られている点が画期的だ。 電動カートに試乗してみて、晴れの日での乗車はとても気持ちがよく、見ている方も楽しく、子どもたちにも人気があるという点で、交流やコミュニティづくり、高齢者の外出支援のツールとしては可能性を感じた。しかし、ドアがないため、雨や雪、風の強い時など天候悪化時には、厳しい状況があり、また、買い物したものが落下するリスクも感じた。要支援以上の高齢者の移動には、軽四自動車などの車両の併用があってもいいと感じる。 グリスロは時速20キロでの走行で、速度は意外と速く感じる。交通量の多い道路では、グリスロの存在が認識されないと接触事故の危険もあり、走行環境には工夫が求められる。グリスロの運転手は、講習と実技の両方の研修を受けた人のみ運転できるしくみであり、安全確保に向けて、先進的な取組がされている点は、本市でも大いに参考にしたい。今後どのように進化していくのか楽しみである。
委員所感 （意見・課題・本市への反映など）	●川村奈緒美副委員長 町田市の住民と事業者が一体となって、全国初の自家用有償旅客運送として導入から一年。支えあいの仕組みの成功例であると感じた。鶴川団地の交通空白地域をターゲットに、引きこもりがちな高齢者の外出をサポートし、送迎サービスを行う。単なる交通手段ではなく、そこにはコミュニティが

生まれ、小さな変化にも気付きあえる関係が生まれる。止むを得ず車を所有していた高齢者の免許返納のきっかけにもなったようだ。市側も高齢者福祉だけではなく、住宅・交通・障害者福祉など様々な担当が関わったことで総合的な進め方ができたのだろう。環境問題にも寄与した取組であり、空き店舗ゼロの商店会の益々の活性化にも繋がる、本市にも応用できる可能性のある事業であると感じた。今後についても、経過を追って行きたい。コロナ禍の中の視察受入れに心より感謝する。

●森 喜彦委員

高度成長期に開発された団地に入居した世代が高齢化や障害によって自ら自動車や自転車を運転できなくなっている。自宅周辺の数百メートルの移動にも困難を抱えている事例もあり、自宅周辺～直近のバス停までの、ラストワンマイルを埋める交通手段、グリーンスローモビリティのニーズは八王子にも存在する。

鶴川団地ではタクシー事業者からの反対はなかったとのことだが、団地によって事情は異なるはずなので、八王子における実験を行う場合には丁寧な議論が必要であると感じた。

●富永純子委員

交通空白地域の高齢者の移動支援として、高齢者の健康と生活を支えるとともに、団地の活性化そしてエコスタイルのカーツを使用、幾重にも複合したプロジェクトに、事業に対する関係者の熱い思いが伝わってまいりました。また、個々のニーズに丁寧に対応できる利用者に寄り添った個別送迎サービスでありました。高齢化するまちづくりの目指すべき取組で、学び多き視察でありました。大変ありがとうございました。

●石井宏和委員

まるく立体的な鶴川団地センター名店街の雰囲気の良いさに惹かれました。閉店する店がないというのも頷けます。試乗した電動カートは解放感があり、案外スピード感もありました。

社協の皆さんの線引きなどのご努力も貴重で、利用者も広がることと思います。旧坂も大丈夫との説明に、八王子での可能性に思いが広がりました。

●八木下輝一委員

近くの自治体でこのような事業が展開されていたことは、まったく知らなかったこともあり、非常に興味深く視察ができました。事業全体の説明はある程度理解できましたが、詳細について、特にこの事業全体の費用からみた資料がありますとさらに良かったと思います。

私の推測になりますが、現行の事業推進の中では、公の支出でサービスの展開を維持していると思います。市民・事業者・地元商店会・町田市の費用からの関わり方と今回のプロジェクトの次の展開を話してほしかった。

●西本和也委員

視察を受け入れて頂き、誠にありがとうございました。

住民の求めに応じ、事業者が自主的に運行しているのことに驚いた次第です。高低差のある地形では日々の移動に大きな一助となるもので、同様の

課題をもつ各地において注目に値する取組です。今後、持続の可能性を検証し、平面展開ができることを期待します。

●相澤耕太委員

カートに乗車させていただきましたが 20 km/h のスピードは結構速く感じました。本取組みではカートは軽自動車の登録をしてナンバーを取っていますが、団地の敷地内などに限定して簡易な許可で運用できるようになると、本当の意味で地域の高齢者の足プラス気分転換に効力を発揮できるのではないかと可能性を感じます。その際の走行速度は 5~6 km/h 程度で十分のように思います。

現在は要支援の方のみが利用対象とのことですが、団地内を一廻り乗るだけでも楽しいものだと思うのです。事故の際の対応や法律との兼ね合いなど解決しなくてはならない課題は多いとは考えられますが、高齢者の日常を明るくする施策として取り組む価値はあるものではないかと感じました。

●福安 徹委員

当日は、運営者の方や事業者の方に詳しい説明をいただきました。

福祉の仕組みの中での新しい交通システムの構築は、道路交通関係の法律にも気を配りながらの運用で、様々な問題点があることもよくわかりました。団地という特別な環境での運用の難しさも理解できましたので、本市の新交通システムについて検討する参考になりました。

視察の様子

